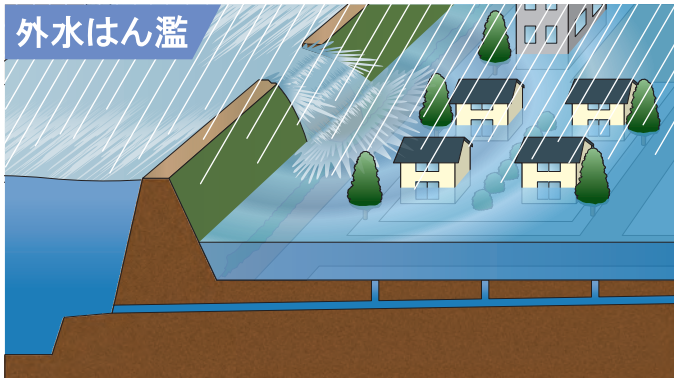
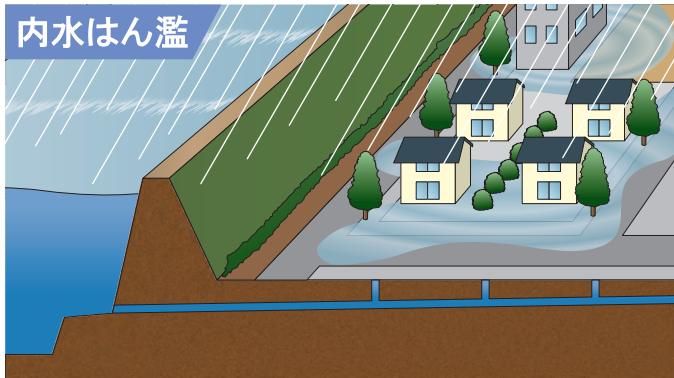


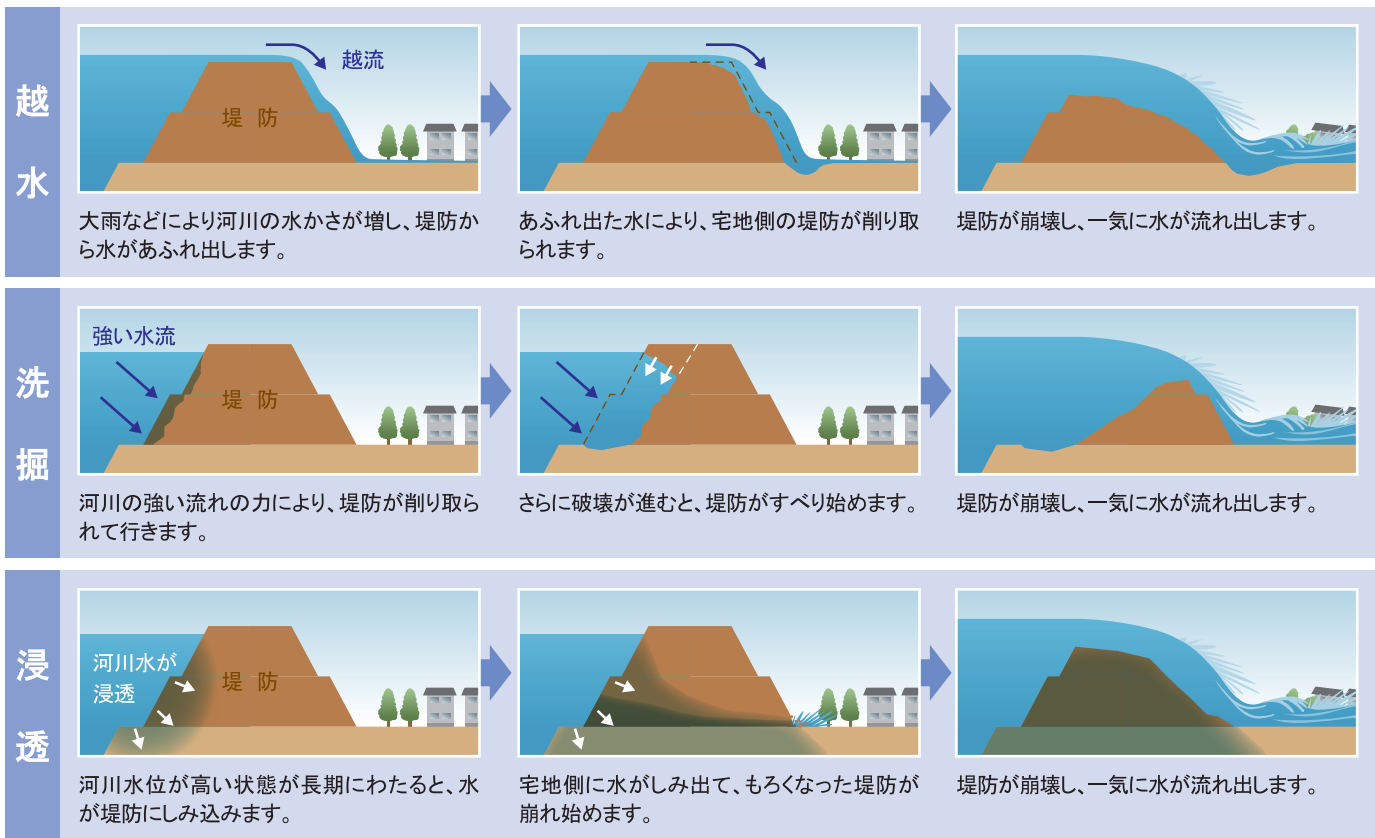
● 内水はん濫と外水はん濫

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こるはん濫（内水はん濫）と、川の堤防が壊れたり堤防から水が溢れたりして発生するはん濫（外水はん濫）があります。まずは、洪水の発生する仕組みを理解して、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

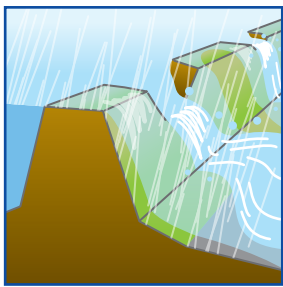


● 堤防決壊のメカニズム

降雨や洪水による堤防決壊のメカニズムは、①河川からあふれ出た水により決壊する「越水」、②河川の強い水流により、堤防が削り取られて崩壊する「洗掘」、③堤防の内部に水がしみ込むことによって強度が低下し決壊する「浸透」の3つに大別されます。

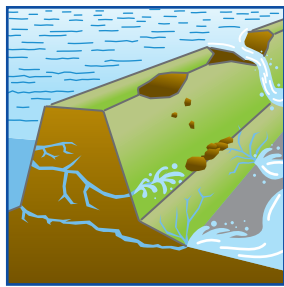


 こんな時は要注意!!



■大雨のとき

大雨のとき、河川等の水位が上昇し堤防を越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊することがあります。土砂・流木などで水の流れが閉塞した場合、堤防を越流しやすくなり、浸食・崩壊の危険性は、一層高くなります。



■大地震のとき

大地震のときに、河川等の堤防が異常な力を受け亀裂が生じたり、地盤の液状化により決壊する危険性があります。比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐えきれず決壊に到ることがあるので注意が必要です。

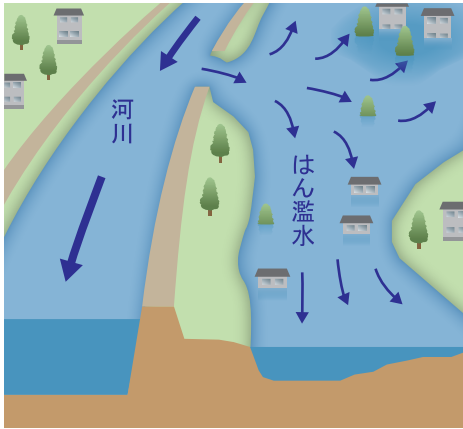
自主防災組織の役割と活動

災害発生時には、安城市や関係機関は全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織が行う訓練に参加して、防災知識を身につけたり、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。

● 河川のはん濫特性

河川のはん濫特性は、地域の地形条件から洪水時のはん濫水の挙動に着目して分類すると、「拡散型はん濫」、「流下型はん濫」、「貯留型はん濫」の3つのタイプに分けることができます。

拡散型はん濫



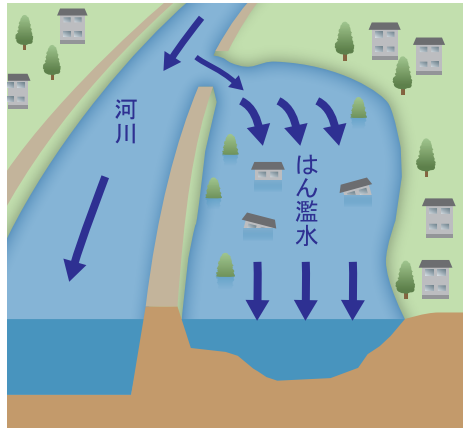
特 徴

- 扇状地、自然堤防帯、三角州などで、低平地面積が広い地形で見られます。
- はん濫水が広範囲に拡散します。
- 堤防決壊部周辺以外での流速は比較的に遅くなります。

気をつけること

堤防から離れている地域でも、はん濫水が到達します。大河川においては、多くの場合、雨がやんだ後にはん濫が起こります。

流下型はん濫



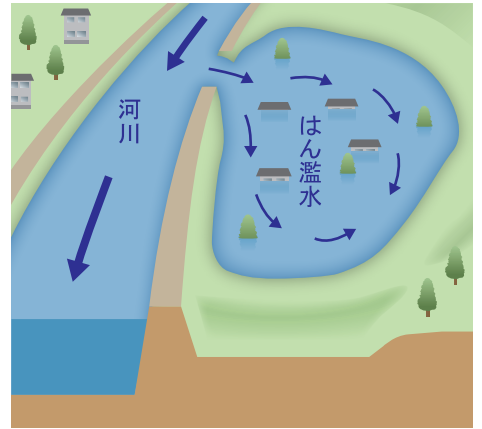
特 徴

- 谷底平野などで、高低差のある地形や、平地面積が小さい地形で見られます。
- 高水深、高流速ではん濫水が流下する機会が多く、家屋が流失するほどの大きなエネルギーが発生する場合があります。

気をつけること

浸水域が河川に沿って流下します。はん濫水は浸水域が広がらないまま流下するので、川から離れる方向への避難が有効です。

貯留型はん濫



特 徴

- 川と川の合流点や、はん濫域が丘陵や自然堤防帯等に囲まれているような地域で見られます。
- 浸水している時間が、比較的に長いタイプのはん濫です。

気をつけること

浸水深が深くなることが多く、また短時間で水位が上昇することから、早めに浸水区域から出ることが求められます。

安城市で起こるはん濫はどのタイプ？

安城市では、矢作川・鹿乗川・猿渡川等からのはん濫水が低地にひろく広がる「拡散型はん濫」が起こりますが、河川沿いでは「流下型はん濫」への注意も必要です。また、市内南部の油ヶ淵や矢作川・鹿乗川周辺では、「貯留型はん濫」が起こります。

安城市で起きた過去の水害

▼令和4年7月27日
半場川の決壊状況



▲令和5年6月2日
矢作川の増水状況



令和4年7月27日

- 総雨量：144mm
1時間あたりの最大雨量：92mm
- 床上浸水：12件
 - 床下浸水：24件
 - 通行止め（市道）：11箇所
 - 河川決壊：半場川

令和5年6月2日

- 総雨量：200mm
1時間あたりの最大雨量：38mm
- 床上浸水：1件
 - 床下浸水：1件
 - 通行止め（市道）：14箇所
 - 道路陥没（市道）：1箇所